



令和2年10月の園だより

【一緒に遊びたいけれど…】

日中は気温の高い日もありますが、暑さが和らぎ、随分過ごしやすくなってまいりました。公園や屋上などに出かけ、しっかりと身体を動かしたり、色づいた葉っぱや木の実、小枝など様々な素材に触れ、秋を感じて遊んでいきたいと思います。また、今月はみみようフェスティバルがあります。今年、コロナの影響で例年のように食品や物品のバザーは行いませんが、身近に感染者が出ていないことを前提に、感染防止対策をしっかりと行い、園で子どもたちが遊んでいる素材やあそびを用意し、親子で一緒に楽しめる場になるよう企画していきます。どうぞお楽しみに。ただし、状況が変わり次第、変更になることもありますので、ご了承ください。

最近1歳児のクラスでは、友だちの持っているおもちゃが欲しかったり、友だちと同じ場所で遊びたかったりして、おもちゃや場所を取り合ったりすることがよくあります。時に友だちに噛まれたりすることもあり、保護者の方は、「わかっています。子ども同士の事ですから」と言ってくれますが、お子さんの痛々しい傷跡に心を痛められていることを思うと、咄嗟のこととはいえ、事前に制止できなかつたことに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

ただ、これは決して相手のことが嫌いだとか、意地悪をするという悪意のあるものではありません。赤ちゃんの時は、周りの大人にお世話をしてもらって依存しており受け身の状態ですが、大好きな大人にしっかりと受けとめられた子どもは、安心して自分の思いを出すようになります。そして、1歳半頃から自我が芽生え始め自己主張が強くなってくると同時に、友だちの存在が気になり一緒に遊びたいけれども、自

分の思いを言葉で十分に伝えられず、このような行動になってしまうのです。

ただこの時、大人が一方向的に良し悪しを判断し、「ごめんねは？」や「かして」「どうぞ」の言葉だけのやりとりを教えるのでは、幼児期以降子どもたちが自分で考えて解決する力にはつながっていきません。まずは、「痛かったね。」と抱っこしたりさすったりしながら噛まれた子の痛い思いに共感すること、噛んでしまった子には、「噛んだらダメ」と頭ごなしに言うのではなく、「〇〇ちゃんの持っているおもちゃが欲しかったんよね。」「でも、〇〇ちゃん痛い痛いだね。」とお互いの思いをくみながら、言葉を添えて仲立ちをしていくことが大切です。だいたい3歳くらいになり、言葉で少しずつ気持ちを伝えられるようになると(個人差はありますが)、噛むことも少なくなってくるので、一緒に見守っていただければと思います。そして、「もう少し待ってみる?」「貸してって言ってみようか」など提案しながら、どうしたらいいかを一緒に考えていくことも必要です。このように思いを受けとめられ、言葉で丁寧に伝えてもらうことで、子どもは少しずつ相手の気持ちに気づいたり、人との関わり方を知っていきます。そして、この乳児期の経験の積み重ねが、将来のコミュニケーション能力の土台になったり、何か問題が起きた時に自分で考えて解決していく力の基盤になっていくのです。

園では、これからも子どもの思いを大切に受けとめ、一人ひとりの育ちを保護者の方とともに支えてまいりたいと思います。ご家庭でもお子さんの話に耳を傾けていただき、何かありましたらいつでも声をかけていただければと思います。一緒に考えていきましょう。

